

# 定例教育委員会会議録

(令和2年10月7日開催)

岡谷市教育委員会

# 定 例 教 育 委 員 会

日 時 令和2年10月7日(水)  
9時30分～  
場 所 市役所6階 605会議室  
署名委員 高木委員、藤森委員

## 【 次 第 】

### ○ 開 会

### ○ 教育長報告

### ○ 議 題

1. ICT環境整備計画について【資料No. 1】 (教育総務課)

### ○ 報 告

1. 新型コロナウイルスの対応について【資料No. 2】 (各課)  
2. 岡谷市教育委員会点検評価報告書について【資料No. 3】 (各課)  
3. 令和2年度成人式について (生涯学習課)

### ○ そ の 他

- ・行事等について (各課)
- ・その他

【次回開催予定】 11月5日(木) 定例教育委員会 15時30分～ 9階大会議室

## 出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、  
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

## 事務局（説明員）

教育部長 城田 守、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 竹内 良之、  
生涯学習課長 山田 勝由紀、スポーツ振興課長 小河原 義友、教育総務課統括主幹 小口 明彦、  
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 芳沢 幸祐

## <会議録>

### ○開 会

岩本教育長： 皆さんおはようございます。ご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。10月に入り早一週間経ちました。10月は神無月とも言われますが、ほかにも初霜月、時雨月、出雲地方では神様が集まるので、神無月ではなく、神在月と言われております。それではただ今より10月の定例教育委員会を開催いたします。よろしく願いいたします。本日の署名委員は高木委員さんと藤森委員さんをお願いをしたいと思います。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

### ○教育長報告

何点か報告させていただきます。

#### 1. 学校行事について

今年度は感染防止対策により、運動会や修学旅行などの行事は、いつもと違う対応が求められております。

これらの学校行事は、教育活動として大切な取り組みでありますので、できるだけ中止をせずに、子どもたちの良き思い出に残るような行事を実施したいと考えており、各校において安全を第一に考えながら、行先や内容を見直して対応していただいております。

こうした中で、9月には小学校4校で運動会が開催されました。時間を短縮して、保護者の参観につきましても人数を抑えたり、あるいはプログラムは接触や密着しない内容での開催となりましたが、先生方が工夫を凝らした楽しい種目が生まれ、子どもたちが一生懸命、目を輝かせて取り組む姿が見られました。今月は、川岸小、岡谷田中小、小井川小の3校で開催する予定でございます。秋晴れの下、子どもたちが元気よくはつらつとして運動会ができることを願っているところです。

次に、中学校の文化祭は9月に岡谷西部中、岡谷南部中、岡谷東部中が開催をし、岡谷北部中では、9月18日の開会式から今月9日の閉会式まで、数日間に分け、授業の時間内で開催するなど、各校で工夫しながら開催していただきました。生徒の皆さんは、感染リスクを回避しながらの開催となったわけですが、記憶に残る文化祭になったのではないかと考えております。

各学校の修学旅行については、9月に実施した小井川小と岡谷田中小は、行先を県外から県内の南信地域への1泊旅行に変更して実施したところであります。今後、予定している学校についても、現状では県内での実施になると思いますが、感染防止対策を徹底して実施できるよう準備を進めております。

また、政府のGOTOトラベルキャンペーンに東京が加わり、9月のシルバーウィーク以降、人の流れが地方でも活発となり、感染の拡大が心配される場所ではありますが、しばらくはコロナと付き合っていかなければなりませんので、引き続き、感染リスクを最小限にして、児童生徒の安全を第一に、創意工夫しながら学校行事を行ってまいりたいと考えているところであります。

#### 2. 第68回長野県公民館大会について

生涯学習課からは、第68回長野県公民館大会についてであります。

当初2日間の日程で予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で規模を縮小し、岡谷市カノラホール小ホールを主会場として、9月24日（木）1日で開催をしたところでございます。

オンラインで会議等が開催できる「Zoom（ズーム）」を利用して、主会場でありますカノラホールと講師の秋田大学の原教授、そして長野県下各公民館の合計34会場をリモートで結びました。全体会では、長野県出身の原教授の講演「コロナ共生社会の公民館」を視聴し、その講義内容に基づいて行った分散会でグループ討議を行いました。中止としましたシルクファクト岡谷の高林館長の研修会、各分科会につきましては、内容原稿を大会のまとめに掲載し、講演のDVDと一緒に県内各公民館へ配布をしていただく予定となっております。

オンラインという初めての試みでしたが、無事終わることができました。参加者からは「集まらなくても十分討議できた。」という高評価をいただいたところであります。

新たな公民館活動の方法を模索し、切り拓いていく良い機会となりました。先の見えない「Withコロナ」社会において「Zoom（ズーム）」等オンライン会議システムの活用に、大きな期待を抱いているところであります。

### 3. 体力・運動能力調査について

この調査は、毎年、スポーツ庁から依頼があり、各自治体で実施しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

しかしながら、岡谷市では市民の皆様が定期的にご自身の体力の現状を把握することで、継続的に運動・スポーツに取り組んでいただくため、感染症対策を講じる中で、9月13日（日）に市民総合体育館におきまして実施いたしました。対象者は20歳から79歳までの岡谷市民とし、当日は47歳から75歳の男女20名の方に参加いただきました。

調査内容は、64歳までが握力、反復横跳び、20メートルシャトルランなど、また65歳以上は開眼片足立ち、長座体前屈、6分間歩行など、それぞれ計5種目を行いました。

当日は、岡谷市議会広報公聴委員会による視察があり、議員さんの中には調査に参加し、一緒に汗を流した方もおられました。参加された40代の女性からは「毎年参加して、自分が体力を維持できているか確認している。毎年参加することで、昨年の記録と比較することができ、自分の努力で体力年齢は若くいられる。」との意見をいただいております。本調査は、運動・スポーツに対する意識の醸成につながっているものと考えております。

### 4. VC長野トライデンツのホームゲームについて

10月31日（土）、11月1日（日）に市民総合体育館にて行われるバレーボール1部リーグ VC長野トライデンツのホームゲームについて説明させていただきます。

両日とも2試合が予定されており、1試合目は午前11時からFC東京 対 大分三好ヴァイセアドラー、2試合目が午後2時からVC長野トライデンツ 対 サントリーサンバーズが予定されています。

スワンドームはコロナ対策で人数制限を設けておりますが、その制限を10月1日から収容人数の約半数となる800人に変更いたしました。当日は選手、スタッフ、観客を含め、約800人のみなさまがスワンドームに訪れる予定です。特にサントリーサンバーズ所属の全日本選手のメンバーであり、全日本のキャプテンを務め大変人気のある柳田将洋選手が来場することになっており、多くの熱狂的なファンが詰めかけることが予想されます。観客数が制限されていることもありますので、チケットを手に入れることも難しいホームゲームになるかもしれません。

また、先日はVC長野トライデンツのみなさんを講師とした小中学生のバレーボール教室を開催し、大変好評でした。その地元VC長野の選手の活躍も楽しみであることはさることながら、全日本、世界の舞台で活躍する選手のプレーを間近で見られる貴重な機会となります。今回はトップレベルの試合を観ることにより、迫力満点なスポーツの楽しさを実感し、また、会場一丸となって応援し、支えることで、バレーボールのみならず、スポーツの推進につながる2日間になるかと思っております。

コロナ対策については、主催者側も大変気を遣いながら準備を進めており、当日は安全に、大勢のみなさまに楽しんでいただけるよう、盛り上がり期待したいところです。

私からは以上であります。ただ今、ご報告した件について、ご質問等ございましたらお願いいたします。

草間職務代理者： 中学校の修学旅行はどのような予定になりますか？

事務局： 中学校の修学旅行につきましては、本来でありますと奈良・京都が定番のコースということで予約をしておりましたが、一学期中の日程を全部延期して、延期をした先は同じ行程を予定しております。予約がそのままになっている学校もありますが、情勢の中では県外の修学旅行は難しいだろうということもあり、まずは岡谷東部中学校が10月2日からの日程で南信地方に日帰りで楽しい一日を過ごしてまいりました。

岩本教育長： 中学3年生は進路という点で12月頃から難しい時期に入りますので、各学校で子供や保護者とよく相談をしながら、何とか思い出に残ることをしようと色々考えているところです。

## ○議 題

### 1. ICT環境整備計画について（教育総務課）

岩本教育長： 議題1について、事務局より説明をお願いします。

<事務局からICT環境整備計画について説明。学校でのICT活用事例を動画で視聴>

岩本教育長： それではただ今ご覧いただいた映像でも結構ですし、整備計画についても結構ですので、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

太田委員： 整備計画の「4. 学校教育に関するICT環境整備の基本方針」の「(1) 学校教育用ネットワーク環境の整備」の2番目の「学校外の通信環境」とあるのですが、これは、例えばその下の「5. 各分野に関するICT活用方針」の「(3) 放課後、家庭学習におけるICT活用」を想定した学校外の通信環境という捉え方で良いでしょうか。

事務局： これは学校内で現在使っている校内ネットワークに繋がる、学校まで届く幹線となる光ケーブルの部分が教育専用回線であるということです。ご家庭では通常の通信環境でご利用していただくこととなります。

太田委員： それを使用するのはどのような場面を想定されているのでしょうか。

事務局： 先ほどの動画でもご覧いただいたように、授業の中でも普通にインターネットを利用します。これから一人一台に配備していく端末は基本的にネットに繋いで活用していくのが、国が求めている規格になります。通信しないと機能を発揮できない端末なので、日々の学校の授業や教育活動で使うための通信回線となります。

岩本教育長： 「校外」という言葉がちょっと誤解を与えるかもしれませんね。

事務局： 確かに「校外」という言葉だとちょっと分かりにくいので、見直します。

藤森委員： ハードウェアや学習用支援ソフトの選定基準みたいなものはありますか。

事務局： 内部的には学校の先生方を委員とする情報教育委員会を立ち上げ、GIGAスクール用端末の選定でも現場の先生方の声を集約し、使い勝手などの声を聴きながら機種については選定させていただきました。当然、子どもたちの使いやすさも考慮しなければならないので、端末の大きさやGIGAではキーボードは必ず付けなければならないので、タブレットの部分とキーボードが取り外して分割して使用できる方が携帯性が良いことや、操作性の部分も考慮するなどして、機種の選考を行ってまいりました。

藤森委員： 年数が経つと技術的進化により、OSのアップデート等が必要になってくるが、その際の対応は。

事務局： 今回は新型コロナウイルスへの対応策ということで、今年度は国を揚げた全国一律の対応ということで財政的な支援として、端末調達の3分の2が補助されますが、残りは市費にて整備するものです。年数が経てば更新期は必ず来るものですので、市長会や都市教育長会議などを通じて、この先も国の支援を受けられるよう、声を挙げている状況であります。現状ではまだ明確ではありませんが、国でも検討はされているのではないかとこの状況です。

小平委員： タブレットの部分とキーボードが取り外して分割して使用できるとのことですが、今の子どもたちは、スマホやタブレットを中心に使うようになり、キーボードを使うパソコンが使えない世代になりつつあるとお聴きしたことがあります。子どもたちがキーボードに慣れて、使えるようになるという前提で、キーボードを導入するのでしょうか？

事務局： GIGAスクール用端末は国の標準仕様が示されており、10～12インチぐらいのタブレット端末でキーボードを付けるというものです。ですので、全国どここの学校もキーボード付きの端末を導入します。ただ、本市は低学年では、キーボードを使いこなすのはなかなか難しいだろうということで、画面を直接触るタブレット的な使い方を想定し、小学校にはオプションでタッチペンを付けます。中学生になると、より大人と同じような使い方が想定され、ノートパソコンにはマウスが必要となりますので、オプションとしてマウスの調達を考えております。

小平委員： ネットは自由に利用できますか？

事務局： 授業用で使っていく学習用端末には当然、フィルタリングがかかっています。

高木委員： 先生方の中にはこういった機器の得意不得意があると思いますが、機器を使いこなすので精一杯で、子供と向き合う時間が減ってしまうということが心配でしたが、授業風景を観させていただいて、どの先生も使いこなして安心しました。新しい年度になり、新たに異動してきた先生方も

含め、全教員のICT活用に向けての体制づくりや校内研修を行っていただけたらと思います。

草間職務代理者： 学力向上にもつながるし、先生方の業務や指導の効率化にICTは効果的だと思いますが、全ての先生がすべての教室で同じように、機器を使いこなして授業をするのは困難ではないかなと思います。年齢や機器が苦手な先生、異動によって先生方が入れ替わる中で、ICTを扱うレベルを一定に保つために、「6. 計画のフォローアップ」が掲げられています。市独自でメニューを作成するのでしょうか。

また、学校教育ICT活用推進チーム会議の中には、現場の先生に加わっていただくのでしょうか。

事務局： 実は新型コロナウイルスの影響を受けまして、既に今年の夏から県教育委員会の主催により、リモート会議などICT活用の教員向け研修会が積極的に実施されています。このICT環境整備計画にもありますように、学習指導要領でも、情報活用能力は従来の部分に加えて、当たり前のように養っていかなければならない要素になっていますので、今後、県教育委員会でもICT研修は多くなってきますし、市の方も独自の研修をやっていきたくて考えております。

チーム会議には学校の先生方の代表という形になるかと思いますが、情報教育委員会の先生にご意見をいただけたらと考えております。

太田委員： ICTを推進していく中で、小学生の書くという行為がどの程度、減ってきているのか、あるいはICTを進めていくと、どの程度まで減っていくことにつながるのか、感覚的にどのような状況でしょうか。というのは、ICTも大事なことでやらなければなりません。ある程度の年齢までは文字を書くという行為そのものを無くしていくというのが私個人としては、あまり良いことではないかなと思っているので、書く行為が減ることの危惧が無きにしても非ずなので、どのような現状なのかお聞かせ願えればと思います。

事務局： 本当に重要なところだと思います。読んだり書いたり何か表現する場において、書くという能力は最後の部分で、色々なエキスを集めて学習を進めてこない、最後の表現する場にはたどり着けません。どの教科も書く能力が蔑ろになるということはないと断言はできませんが、書くことを蔑ろにすることはないと言っても良いくらい、これからも大事にしていかなければならない要素です。ICTはあくまで、書くという学びにたどり着く手段ですので、ICTそのものを学ぶ機会も学びの一つの機会として大事にしていくのですが、それよりも大事なことは、学ぶ目的、書くことや読むこと、学ぶ目的に向かってICTを活用しながら、プロセスの中で思考判断して、最終的に表現していくということが学びの根幹になります。ICTを使うことで、基本となる本来の学びが疎かになるのは本末転倒ですので、ICTは学びを活性化させるための媒体であるという心構えで先生方もやっていきますし、国も学習指導要領を作成しています。ICTを使うことで本末転倒にならないように研修等を重ねながら先生方が磨いていくものです。

岩本教育長： 委員の皆さんも学校訪問へ行かれた際に、ICTを活用している場面を、今まで以上に見る機会も増えたのではないかなと思います。今まではチョーク一本と教科書で勝負するような授業でしたが、ICTを活用した授業が多くなり、その結果、何が変わったのか。私が一番変わったと思うのが、子どもたちの声が教室に響くようになったと思います。子どもたちが自ら声を出して、そして、進んで学習に参加するというのが非常に大きな成果なのではないかなと思います。子どもが自分の学習として捉えて、授業に参加するような姿が出てきたように評価しています。ICT活用のメリットは非常に大きいものがあるのではないかなと思います。ただし、あくまでもいかに活用するかが大事であって、ICTを使えばいい授業ができるというのは本質ではないと思います。デジタルとアナログ、両方を上手に調和させながら、Face to Faceの授業を大事にしながらICTを活用していくこと。これは先生方と一緒に大事にしていくところだなと思っております。何億円というお金をいただいて整備をしていくものでありますので、本当に子供たちの成長、学力向上のために資するような活用ということを十分考えて、やっていきたいかなと思います。

それでは事務局からICT環境整備計画をご提案させていただきましたが、教育委員会として、を承認するというところでよろしいでしょうか。

< ICT環境整備計画について承認される。 >

本日の議題は以上となりますので、引き続き報告事項に入ります。

## ○報 告

### 1. 新型コロナウイルスの対応について (各課)

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局から新型コロナウイルスの対応について説明。>

岩本教育長： ただ今の内容について、質問や意見はありますか。無いようでしたら、報告事項2へ移ります。

### 2. 岡谷市教育委員会点検評価報告書について (各課)

岩本教育長： 報告事項2について事務局より説明をお願いします。

<事務局から岡谷市教育委員会点検評価報告書について説明。>

岩本教育長： 何かご質問ありましたら、よろしくお願ひいたします。

高木委員： 直接、報告書についてということではないのですが、数々の委員会がありますが、コロナ禍で動けない会議や委員会もあると思うのですが、そういう中で会議や委員会が本当に必要なのか、統合できる会議や委員会もあるのではないかと日頃から感じています。

草間職務代理者： 来年度の評価もコロナ禍で実行できないものもあるかと思ひます。来年もコロナでどうなるかわからないので一度立ち止まって、もう一度、事業内容をより練り上げて、事業計画に入れていただきたいと思ひます。

岩本教育長： 本当に必要かという問いを大事にしながら、時には統合、時には少し膨らませたり、必要に応じて柔軟に対応をしていくという行政の姿勢は大変重要だと思ひます。教育の分野でも、とりわけ大事にしていききたいと思ひます。今回は昨年度の報告となりますが、私たちが点検する中では、 unnecessary委員会等は見当たらなかった訳ですが、この委員会とこの委員会は統合しても良いのではというようない率直なご意見も、教育委員さんだからこそ言えることもあるかと思ひます。お気づきの点ありましたらよろしくお願ひいたします。それでは、報告事項3へ移ります。

### 3. 令和2年度成人式について (生涯学習課)

岩本教育長： 報告事項2について事務局より説明をお願いします。

<事務局から令和2年度成人式について説明。>

岩本教育長： 何かご質問ありましたら、よろしくお願ひいたします。

太田委員： 東京方面が多い、成人式後の飲み会があるなど、感染リスクが高いイベントだと思ひますが、なんとか知恵を絞って開催して何とか成人式はやってあげたいと思ひます。

岩本教育長： 毎年参加していただいている区長さん達からもいろいろご意見を頂戴して、どういう形で開催していくか考へている最中では。子どもたちの修学旅行と同じで一生に一度の成人式となりますので、状況に応じて、それども心のこもった成人式にやってあげられたら良いなと願っています。また、委員さん方のお知恵をいただかなければいけないという場合もあるかと思ひますのでよろしくお願ひいたします。報告事項は以上となります。

次にその他ということで、事務局からお願ひします。

## ○その他

### ・行事等について (各課)

<各課より行事予定について説明>

### ・その他

岩本教育長： そのほか教育委員さんの方からなにかあれば、お願ひいたします。

ほかには無いようでしたら、事務局より次回の開催予定についてお願ひします。

<次回開催日確認 令和2年11月5日(木)午前 → 午後 総合教育会議終了後に続けて開催へ変更>

岩本教育長： それでは以上をもちまして、10月の定例教育委員会を終了とします。

午前11時15分終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 2年 11月 5日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

高木千奈美

署 名 委 員

藤森一俊

調 製 職 員

城田守